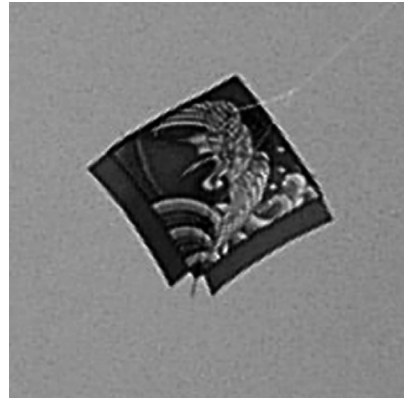


伝統の凧 ゴンボイカ



はじめに
日本には他の国に例をみないほど多くの種類の凧があります。各地域の習俗や地形に合わせて、独特の凧文化が生まれました。いろいろな形の凧に、思い思いの絵を載せて作ります。
また、凧は空の「やじるべえ」のようなもので、微妙なバランスによって大空に浮かびます。その奥深さが凧の魅力の一つでもあります。
自分の作品が大空に浮かぶ姿と自然の風が引く糸の感触は、多くの人を魅了してきました。その感動をぜひ体験してみてください。

内容物

本体（和紙）	1枚	オレンジ色の紙	2枚
横骨	1本	揚げ糸（カード巻き3.5m）	1個
縦骨	1本	つまようじ	1本
ヒゴ	1本	荷札	1枚
補強紙	3枚	木工用ボンド	1個
反り糸（90cm）	1本		
糸目糸（180cm）	1本		

作り方

1

絵を描く
紙の上下、裏表を間違わないように、切り込みのある方が上で、ツルツルした方が表です。

2

縦骨をはる
図のように上を合わせてはる。竹の皮の方にのりを付ける。

3

横骨をはる
両方の穴に竹を通してはる。左右が同じ長さだけ出するようにする。今度は、竹の身の方にのりを付ける。

4

円形にヒゴを取り付ける
■部分にのりを付けて、竹をはさんで折り返す。

5

補強紙をはる
糸を付けるところと一番下の3カ所に補強紙をはる。水を付けるだけではることができる。

6

上の部分を折り返す
図のように■部分を折り返し、のりで貼る。

7

反り糸を付ける
短い方の糸を横骨の両端にくくりつける。反らせるのは後にするのでたるむ程度に糸を付ける。

8

オレンジ色のひれを付ける
両面テープをはがし、1cmくらいの幅で左右同じように、凧の裏からはりつける。

9

糸目を付ける
長い方の糸の両端を図のように凧の表から骨にくくりつける。ピン穴があいているのでそこに針等を使って糸を通してくる。詳しくは次に示す手順で行う

10

糸を通す穴をあける
つまようじを使い、糸を通すところに穴をあける。できるだけ骨の近いところにあけるとよい。

11

糸を通す
針の代わりに荷札の針金を使って、糸を通す。凧の表から入れ、反対側から表に戻し、それを2回繰り返す。

12

糸を結ぶ
図のように2度繰り返してしっかり結ぶ。糸の端は5mmほど残しておく。

13

糸目を合わせる
図のように2本の糸をしぼったとき横骨の2.5cm下のピン穴にくりよように、2本の糸を合わせる。

14

合わせた2本の糸をくくり、あげ糸を通すわっかを作る。

15

凧を反らせる
横骨に反り糸を何回か巻き付けて凧を反らせる。
以上で完成。

・凧がくるくる回るときは、上の糸がもう少し長くなるよう糸目を調整して下さい。
・シッポとシッポをつけるシールを入れてあります。付けるときは白いシールでシッポをたて骨に巻き付けるように付けて下さい。また、シールはこわれたときの補修にもお使い下さい。